

# 茨城大学学報

第263号

平成17年10月～平成17年11月



多数の来場者で賑わう茨苑祭(平成 17. 11. 19, 20 開催)

## INDEX

- ◆水戸キャンパスに「同窓会・教職員退職者交流支援室」がオープン
- ◆水戸市及び鹿嶋市と連携協力協定を締結
- ◆茨城産業会議との連携による研究室訪問交流会を開催（工・農学部）
- ◆茨城県高等学校教育研究会と入試懇談会を実施
- ◆第4回学内交流会を開催
- ◆人文学部で「地域連携シンポジウム」を開催
- ◆茨城大学「学生地域参画プロジェクト」を開始
- ◆第1回3大学合同セミナーを開催
- ◆連携協定を締結した鹿嶋市等が茨苑祭に初参加
- ◆永年勤続者表彰
- ◆日本養護教諭養成大学協議会が発足
- ◆厚生補導研究懇談会を開催
- ◆「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースだより

10月号・11月号

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## 水戸キャンパスに「同窓生・教職員退職者交流支援室」がオープン

本学水戸キャンパスでは、これまで同窓生や教職員退職者が学内を訪ねても休息し、交流するための専用の部屋がなく、同窓生等から早く設置して欲しいとの声が上がっておりました。これに応じて、10月1日から、地域総合研究所棟の2階に、「同窓生・教職員退職者交流支援室」(16㎡)を設けられました。

まだまだ十分な設備が整ったとはいえませんが、テレビ、電話、応接セット、情報誌コーナー、湯茶などが常備され、月曜日から金曜日の午前8時30分から午後5時30分まで自由に使うことができます。

今後、本支援室が、同窓生等のみなさんの生涯学習活動支援の拠点、大学内での情報交換など有効に活用されることが期待されます。



同窓生・教職員退職者交流支援室

## 水戸市及び鹿嶋市と連携協力協定を締結

本学では、10月3日(月)11時から事務局第1会議室において、鹿嶋市と連携協力協定を締結しました。

締結式は、鹿嶋市から、内田俊郎鹿嶋市長外9名、本学から菊池龍三郎学長外11名が出席して行われました。

また、同日14時から水戸市役所政策会議室において、水戸市と連携協力協定を締結しました。

締結式は、水戸市から、加藤浩一市長外5名、茨城大学から菊池龍三郎学長外9名が出席して行われました。また、同席には、水戸市と連携協力協定を締結した常磐大学も出席しました。両締結式の最後には、記者団から多くの質問がありました。

両市とも、それぞれ相互に、まちづくり、産業、教育等の分野で連携協力し振興を図ることを目的とし締結の運びとなったことから、今後はいくつかのテーマを設定し、学生参加の連携事業を行うことを確認しました。



水戸市との協定締結式

鹿嶋市との協定締結式



## 茨城産業会議との連携による「農学部研究室訪問交流会」を開催

本学では、10月24日（月）、午後2時から茨城産業会議（茨城県商工会联合会、茨城県商工会議所連合会、茨城県中小企業団体中央会、茨城県経営者協会）との連携事業及びつくば食品フォーラムの後援で「農学部研究室訪問交流会」を開催しました。

この事業は、農学部の有する各種の研究成果や技術情報等の提供を行い、産業界の振興に資することを目的として開かれているもので、企業関係者33名が参加しました。

訪問会は、松田智明農学部長及び茨城産業会議石川亨専務理事の開会あいさつに始まり、8名の教員から、それぞれ研究概要の説明を受けた後、参加者は2グループに分かれ、設定された説明時間帯を自由に選定して研究室紹介会場へ足を運びました。説明会場では、教員、院生及び学生の研究内容の説明、また参加者の質問に答えていました。

続いて、企業関係者及び大学関係者が出席し交流会が開催され、三村信男学長特別補佐のあいさつに始まり、乾杯の後、産学官の有意義な情報交換が行われました。

## 茨城産業会議との連携による「工学部研究室訪問交流会」を開催

本学では、11月4日（金）、午後2時から茨城産業会議（茨城県商工会联合会、茨城県商工会議所連合会、茨城県中小企業団体中央会、茨城県経営者協会）との連携事業及びひたちものづくり協議会との共催で「工学部研究室訪問交流会」を開催しました。

この事業は、工学部の有する各種の研究成果や技術情報等の提供を行い、産業界の振興に資することを目的として開かれているもので、今回は、環境・エネルギーをテーマに、企業者が興味を持っている研究部門を訪問できる体制を整え、企業関係者及びひたちものづくり協議会から58名が参加しました。

訪問会は、山形耕一副学長及び白石昌武工学部長の開会あいさつに始まり、塩幡宏規共同研究開発センター長から、「大学と企業の共同研究について」及び都市システム工学科福澤公夫教授、大学院理工学研究科院生の石川友彦さんから共同研究の事例紹介が行われました。

その後、参加者は4班に分かれ、7つの研究室を訪問し、教員の研究成果に身を乗り出して聞き入っていました。続いて、企業関係者及び大学関係者が出席し交流会が開催され、時間を過ぎても話が尽きないほど、産学官の有意義な情報交換が行われました。

## 茨城県高等学校教育研究会と入試懇談会を実施

茨城県高等学校教育研究会進路指導部主催による入試懇談会が、10月24日(月)に東海村のテクノ交流館において開催され、33の高等学校から110人の出席がありました。

この入試懇談会は、毎年、茨城県高等学校教育研究会進路指導部と県内国公立大学との間で、入学試験に関する意見交換の場として設定されているものであるが、今年度の主たるテーマは、平成18年度入試の展望、新課程の入試で求められるもの、専門高等学校選抜等であり、本学からは、教育担当の副学長及び学長特別補佐を始め、各学部の入学者選抜方法研究専門委員会委員並びに事務部の14名が出席しました。

最初に、本学の村中副学長の挨拶があり、続いて「茨城大学入学戦略センター」設置準備室長を兼ねる池谷学長特別補佐から、同センター構想及びアドミッション・ポリシーの進捗状況等が報告され、その後、入学者選抜方法研究専門委員会委員が事前質問に応じて現状を説明し、さらに高等学校の進路指導教諭からの質問に応ずるといった形で進行し、活発な意見交換が行われました。

今年度は特に、大学として少子化を見据えた入学者の確保、高等学校としては生徒のより良好な進路指導等に関して、その情報交換の必要性を再認識する懇談会となりました。



高等学校との情報交換の場となった入試懇談会の様子

## 第4回学内交流会を開催

本学では、10月26日(水)農学部において、「第4回学内交流会」を開催しました。

この学内交流会は、「高度な専門的職業人を養成する、地域性と総合性を持つ大学」を目指し、学術文化の総合力を発揮するための施策の一つとして、PR委員会(学内交流事業運営部)が毎年開催し、今年で4回目となります。

今回は、「食と環境への茨城大学の取り組み」と題して農学部で行われ、3キャンパスに分かれている教職員102名が阿見キャンパスに会し、1部では研究紹介・施設見学、2部は学科紹介及び懇親会の構成で行われました。

開会の挨拶では菊池学長から学部間の研究者交流への期待の言葉が述べられ、松田農学部長の挨拶のあと、太田農学部長補佐による農学部概要紹介、続く研究紹介では、平成17年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムに選定された中島紀一附属農場長による講演「自然共生型地域づくりの教育プログラム」、続いて「閉鎖型植物生産システムの展開」(清水農学部助教授)の講演が行われました。

施設見学では、東京ドームの5倍の面積を持つ附属農場を見学し、概要説明、様々な地域連携活動の紹介、生産物等の概要説明・試食などが行われ、参加者たちのほとんどは初めての訪問であったため大変興味深い内容となりました。

引き続き行われた2部の懇親会では、研究内容パネル展示による学科紹介も行われ、日頃対面接触の機会の少ない学部の教員同士もうち解け、互いに交流を深め盛会のうちに閉会となりました。



附属農場でのヤーコン栽培の説明の様子

## 人文学部で「地域連携シンポジウム」を開催

本学人文学部地域連携委員会は、10月26日（水）、茨城大学文理・人文学部同窓会との共催で「働く意義・学ぶ意味」と題して、人文学部学生の就職・勉学活動の支援のためのシンポジウムを開催しました。

第一部では、室伏同窓会会長（茨城文化団体連合会副会長）が基調講演を行い、「大学生活はその後の長い人生に大きな影響力を持つ貴重な4年間で、専門以外の授業も無駄なように見えるが必ず助けとなる時が来るので、しっかりと身につけて欲しい」と強調し、次いで人文学部4年次生のプレゼンテーションでは、「就職活動を意識した時から、勉強やサークル活動・アルバイト等の意味が変わる。つまり社会人としての自覚がその時から始まる。」と体験からくる実感を披露、次にパネルディスカッションでは、企業から3名のパネラーと本学部2名の教授が、それぞれの立場から企業から求められる具体的な人物像や目的意識を持った勉学についての意見表明がありました。参加した約100名近くの学生からは質問や疑問等活発な発言がありました。

第二部では、県内主要企業3社から各2名の人事担当者が面接員になり「模擬面接」を行い、面接を受けた学生や見学した学生は、企業が求める人材や人物像について、真剣に聞き入っていました。働くことに対する考え方や今後の勉学の姿勢に多いに参考になったと、学生は感想を漏らしていました。



活発な意見交換が行われたパネルディスカッション

## 茨城大学「学生地域参画プロジェクト」を開始

本学は、学生の斬新なアイデア・企画を募集し、地域社会との連携に活かす「学生地域参画プロジェクト」を開始しました。今年度は12件の申請があり、10月26日、申請者によるプレゼンテーションが開催されました。

審査の結果、採択されたのは以下の8件です。プロジェクトは本年11月から来年3月までの期間で実施し、終了後は実施報告会を行う予定です。

申請者		プロジェクト名	申請分野
所属	氏名		
農学部 地域環境科学科	六 島 絵理香	霞ヶ浦周回の Cycling, Walking コースの設定	4
農学部 地域環境科学科	志 村 緑	自然と友だちうら谷津市民農園 開園準備プロジェクト	2,4
人文学部 コミュニケーション学科	菊 池 麻衣子	茨大・みと再発見 - 地域国際ふれあいナビ from 茨大プロジェクト(秋冬編)	4,5
人文学部 社会科学科	佐 藤 朋 治	大洗町における現状把握とまちMAP 作製プロジェクト	4
人文学部 コミュニケーション学科	朝 津 康 彦	茨城大学マスコットキャラクター作成及びマスコット地域普及プロジェクト	6
教育学部 人間環境教育課程	伊 藤 一 久	茨大地域通貨「10,000 ローズ」プロジェクト	2
教育学部 教員養成課程	永 治 比呂貴	「茨大卓球大会」地域生徒拡大プロジェクト	4
教育学部 情報文化課程	葛 迫 大 祐	彫刻洗い隊	2,4
[申請分野]			
1 教育・研究 2 ボランティア 3 課外活動 4 地域交流 5 国際交流 6 その他			



学生たちによるプレゼンの様子

## 第1回3大学合同セミナーを開催

本学農学部では、10月28日（金）茨城県立医療大学及び東京医科大学との共催により、東京医科大学霞ヶ浦病院医療福祉・研究センター多目的ホールを会場に、3大学及び阿見町関係者ら約120名が参加して、第1回3大学合同セミナーを開催しました。

このセミナーは、3大学が文部科学省の特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）及び現代的大学教育支援プログラム（現代GP）に採択されたことを契機に、3大学の連携を強化して大学教育の改善や活性化を図り、また、地域に密着した教育や医療をはじめとした阿見町との連携をさらに推進させることを目的に、はじめて開かれたものです。

セミナーは、伊東 洋東京医科大学長、菊池龍三郎茨城大学長及び小山哲夫茨城県立医療大学長の開会挨拶に始まり、続いて、各大学の代表者から採択された4件のプログラムが発表され、その後、活発な質疑応答が行われました。

セミナー終了後に開かれた懇親会では、それぞれの教育プログラムについて突っ込んだ意見交換が行われ、大学教育改革に取り組む各大学の意気込みに互いが刺激を受け大変有意義なセミナーとなりました。

このセミナーは、今後も定期的を開催する予定です。



3大学連携取組みに期待の言葉を寄せる菊池学長

## 連携協定を締結した鹿嶋市等が茨苑祭に初参加

本学水戸地区では、11月19日(土)、20日(日)の2日間にわたり、茨苑祭(大学祭)が開催され、多数の来場者で賑わいました。

今回は、本学と包括協定を締結した鹿嶋市、人文学部との協定締結した常陸大宮市及び大洗町が初めて参加しました。

鹿嶋市は、初日のみの参加で「夢フィールド 交流(ふれあい)のまち かしま」のキャッチフレーズのもと、鹿嶋市特産のはまぐりとホッキ貝を具とした特選カレーの販売、農業後継者で作るクラブ「一揆」のメンバーが丹誠込めて作った野菜の販売、鹿嶋市の観光案内等に総勢18名で参加しました。

それぞれ特産物販売及び市町のPRに汗を流し、地方自治体が学生及び地域住民との交流を通して得た連携の輪は、大学の歴史に新たな一頁を刻む小春日和のひとつとなりました。



特設テントでの農産物の販売、観光案内

## 永年勤続者表彰

平成17年度本学永年勤続者表彰式が、去る11月22日(火)事務局会議室において、学長出席のもとに執り行われました。

また、表彰式終了後懇談会が開催され、受表彰者からの思い出話や今後の抱負等が披露され、和やかなうちにお開きになりました。

なお、被表彰者は次の方々です。

### 学長表彰

財務課支払管理係 支払管理主任	飯竹 俊光
研究協力・地域連携課 生涯学習係長	小川 徹
学術情報課工学部分館図書係 図書主任	川又 圭一
教育学部総務係	岩下 英基
工学部学務第一係 教務主任	岡崎 豊文
工学部学務第一係 教務調査主任	倉田 順一
工学部技術部 技術専門職員	大森 芳史
農学部附属農場 技術専門職員	池田 正則



学長挨拶（上）事務局玄関前での記念写真（下）

## 日本養護教諭養成大学協議会が発足

養護教諭の免許授与課程をもつ大学・短期大学および大学院が会員となる「日本養護教諭養成大学協議会」が発足し、11月26日(土)に東京学士会館で設立総会が開催されました。

総会では、72大学、74名の教員が出席し、文部科学省高等教育局専門教育課・全国養護教諭連絡協議会・日本教育大学協会全国養護部門および日本私立大学・短期大学(部)養護教諭養成課程研究会の方々から参加と祝辞が贈られました。

第一部は、茨城大学大谷尚子発起人代表による「本協議会設立の経過報告」のあと、浅田和伸専門教育課長による講演「教員養成教育の展望」が行われ、内村鑑三の著作も引用しながら「教育の本質」への問いが発せられ、専門性を備えた教員の養成に励み、その姿をもっと社会に示すようにと、大学人の発奮を促されました。

会則制定後の第二部は、千葉大学・古在豊樹学長による「これからの大学教育のあり方 - 人を育てる専門職業人の育成にどうかかわるか - 」の記念講演が行われました。極めて個人的・園芸的な体験話の中に、少数者である者への理解の仕方やストレス社会における植物系人間の活躍の必要性が示唆されました。

第三部は6つのテーブルに分かれて、懇談とネットワーキングが図られました。

いずれも、本協議会の活動を方向付ける上で貴重な機会となりました。



浅田専門教育課長の講演の様子

## 厚生補導研究懇談会を開催

本学では、11月29日（火）、厚生補導のあり方について研究討議を行い、厚生補導業務の改善向上並びに厚生補導担当教職員相互の意思疎通を図り、円滑な学生支援を行うことを目的として厚生補導研究懇談会を実施しました。参加者は、村中副学長、厚生補導関係委員会委員である教員及び各学部職員並びに学務部職員60名です。

今年度は、村中副学長（教育担当）を座長として「学生支援の在り方」をテーマに全体会を午前中に行い、午後から修学支援、学生支援及び就職支援の3つ分科会に分かれて、履修相談・担任制度、新入生オリエンテーション、学生ポータルシステム導入、課外活動顧問教官の役割、合宿研修所の利活用、インターンシップ及び進路の把握など厚生補導全般にわたる研究討議となり盛況に終わりました。



厚生補導担当教職員らが集まり熱心な討議が行われた

## －「NHK県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 10月号－

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「わいわいデジタル便り」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成17年10月6日(木)・・・茨城大学忠北大学交流事業訪韓団

：第15回茨城大学－韓国忠北大学校 交流事業  
(訪韓団長：理工学研究科高妻教授)

茨城大学では、15年前の平成3年(1991年)から、韓国の忠北大学校と学生の相互交流事業を行ってきました。

今回は、今年8月、韓国での研修の様様を紹介いたします。忠北大学校本部前での記念撮影、アンドンにおけるリュウ一族の村(貴族階級＝ヤンバン)、スウェダンにおいて約400年前の朝鮮時代の貴族階級の家に宿泊して伝統的な民族文化を体験しました。



写真の右下が小田切アナウンサー  
白いポロシャツが出演者の

茨城大学忠北大学交流事業訪韓団  
の皆さんと韓国からの留学生たち

NHK水戸放送局収録スタジオにて：左前列から

糟谷先生、高妻先生、早川さん、小野塚さん、金釉娜さん、矢内さん、朝津くん、小田切アナ  
柴崎学務部長、岡本さん、野上さん、星野さん、半田くん、中山くん、金想雅さん、呉さん  
柏村留学生課長、平沼さん、吉田さん、中野さん、蔡くん、李さん、桜岡留学生係長

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

※デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。

## - 「NHK県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 11月号 -

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「わいわいデジタル便り」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成17年11月10日(木)・・・Formula - SAE をみんなに知ってもらおう!

(大学院理工学研究科・博士前期課程・応用粒子線科学専攻 江川尚史くん)

Formula - SAE とは「ものづくりによる実践的な学生教育プログラム」として1981年にアメリカで始まりました。内容はフォーミュラスタイルの小型レーシングカーを学生がチームを組んで企画・設計・製作したものを持ち寄り、車の走行性能だけでなく、車両コンセプト・設計・コスト審査など、ものづくりの総合力を競う大会となっています。

今年開催された第3回大会に茨城大学が県内で始めて参戦しました。

今回はこの大会へ向けた車作りと大会の様子を写真や動画を交えて紹介し、スタジオに実車を持ち込んでお見せしました。

<http://www.appl-beam.ibaraki.ac.jp/nishino/F-SAE/home/home.html>



写真の右下が小田切アナウンサー  
小型レーシングカーの周りが出演者の  
Formula - SAE 部の皆さんたち

NHK水戸放送局収録スタジオにて :順不同

平尾くん、牧野くん、渡辺くん、江川くん、鈴木くん、吉澤くん、小田切アナ  
楠原くん、西田くん、阿部くん、萩谷くん、飯泉くん、川村くん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。